



環境対応 ラックオプション

2024.9.25(13.1 版)

DNHD6Eシリーズ (Rev. D以降)

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

小型メディアコンバータを最大6台まで実装し、一括で電源供給を行うための収納シャーシです。それ以外の用途にはお使いにならないで下さい。また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社



警告

- ・指定の電圧以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差し込んで下さい。
電源プラグの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・DC電源接続はブレーカをOFFにしてから行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・DC電源の接続は相応の訓練を受けた人が行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・アース線を必ず接続して下さい。
アースを接続しないと感電の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

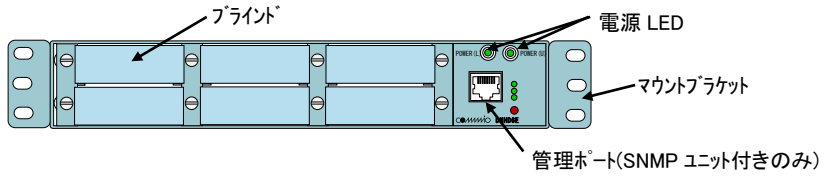
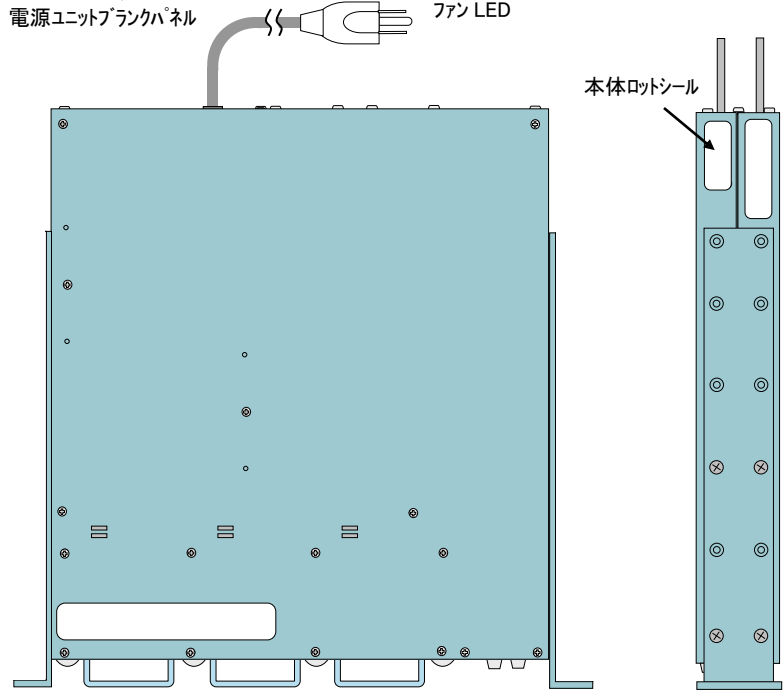
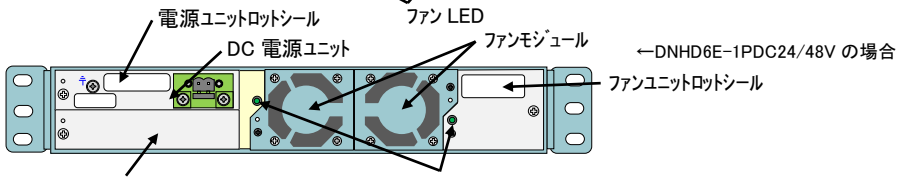
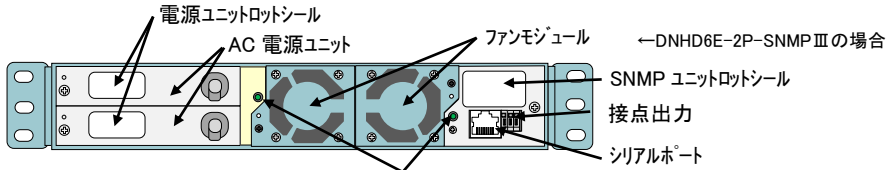


注意

- ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・アース線の接続及び取外しをする場合は、電源プラグをACコンセントから抜き、DC電源は電源コネクタを取外して下さい。
電源を接続したままアース線の接続や取外しをすると感電や故障の原因となることがあります。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・ファンが回転しない状態では使用しないで下さい。
内部の温度が上がり故障の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけがの原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本機をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。

1. 装置各部の説明／付属品

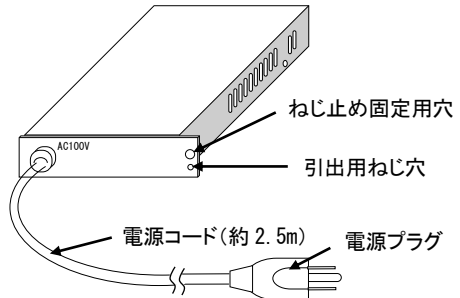
本 体



付 属 品

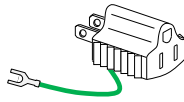
(AC電源ユニット)・・・

「DNHD6E-1P(-SNMPⅢ)」は本機1台に対してAC電源用ユニット1台が装着されています。
「DNHD12E-2P(-SNMPⅢ)」は本機1台に対してAC電源用ユニット2台が装着されています。
※10G長距離MC(DN6710E)を実装する際は、Rev.D以降のAC電源ユニットを使用して下さい。



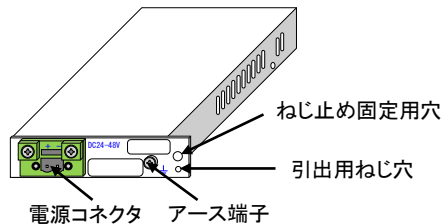
(変換アダプタ)・・・

AC電源ユニット1台に対して1個付属しています。
接地極なしコンセントに接続する際に使用します。



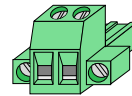
(DC電源ユニット)・・・

「DNHD6E-1PDC24/48V(-SNMPⅢ)」は本機1台に対してDC電源ユニット1台が装着されています。
「DNHD6E-2PDC24/48V(-SNMPⅢ)」は本機1台に対してDC電源ユニット2台が装着されています。
※10G長距離MC(DN6710E)を時実装する際は、Rev.B以降のDC電源ユニットを使用して下さい。

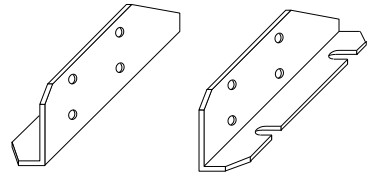


(端子台ブロック)・・・

DC電源ユニット1台に対して1個付属しています。
出荷時にDC電源ユニットの電源コネクタ部に装着されています。

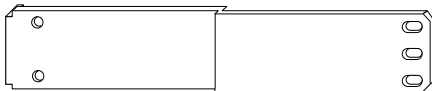


(固定金具)・・・本体を盤などに固定する場合に使用します。



(固定金具取付けねじ)・・・本体に固定金具を取付けるためのねじです。〔M4×6mm 8本〕

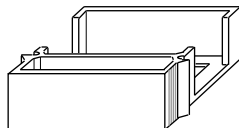
(延長金具)・・・本体を 19 インチラックに取付ける場合に使用します。



(延長金具取付けねじ)・・・本体に延長金具を取付けるためのねじです。〔M5×8mm 2本〕

(ブラインド)・・・

本機1台に対してブラインド6個が取付けられています。
メディアコンバータを実装する際には取外しますが、メディア
コンバータを取外した際に必要となりますので大切に保管して下さい。



(電源ユニットブランクパネル)・・・

「DNHD6E-1P(DC24/48V)(-SNMPⅢ)」は本機背面の電源ユニット
実装部に取付けられています。

「DNHD6E-2P(DC24/48V)(-SNMPⅢ)」は付属品として添付されて
います。一方の電源ユニットを取外してご使用になる場合に必要となりますので大切に保管して
下さい。



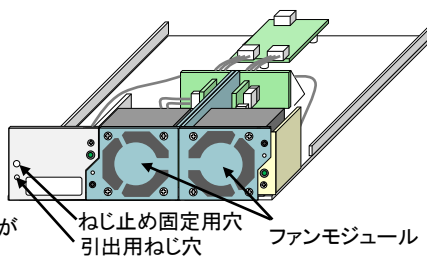
(ファンユニット)・・・

「DNHD6E-*P(DC24/48V)」1台に対してファン
ユニット1台が標準で実装されています。

※ファンモジュール2個が装着されています。

ファンモジュールが両方も故障した状態で使用
すると本体の内部温度が上昇し、本体及び実装した
メディアコンバータを故障させる恐れがあります。
新しいファンモジュールに交換してご使用下さい。

※DN6710Eを実装して使用する場合は、ファンモジュールが
両方共に正常に回転した状態で使用して下さい。



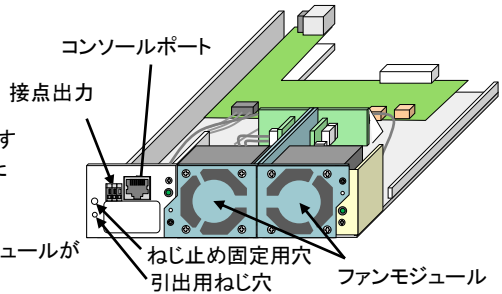
(SNMPユニット)・・・

「DNHD6E-*P(DC24/48V)-SNMPⅢ」1台に対してSNMPユニット1台が標準で実装されています。

※ファンモジュール2個が装着されています。

ファンモジュールが両方とも故障した状態で使用すると本体の内部温度が上昇し、本体及び実装したメディアコンバータを故障させる恐れがあります。新しいファンモジュールに交換してご使用下さい。

※DN6710Eを実装して使用する場合は、ファンモジュールが両方共に正常に回転した状態で使用して下さい。

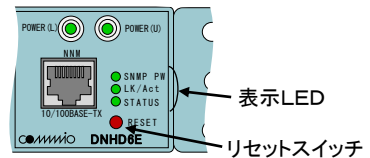


〔表示LED〕

SNMP PW	電源供給時に点灯(緑)
LK/Act	リンク確立時に点灯/ データ送受信時に点滅(緑)
STATUS	CPUリセット中に点灯(緑)

〔リセットスイッチ〕

本製品を再起動するためのスイッチです。先の細い棒などでリセットスイッチを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。



オプション販売品

ファンユニット: 付属のファンユニットが故障した際にご購入下さい。

(品名: DNHD6EFAN)

電源ユニット: 電源を二重化する場合や付属の電源ユニットが故障した場合にご購入下さい。

(品名: DNHD6EPW・・・AC100V用)

(品名: DNHD6EDC24/48V・・・DC24-48V用)

SNMPユニット: 付属のファンユニットと交換することで、DNHD6E本体の電源状態やファンの動作状態、メディアコンバータの実装状態やリンク状態等の監視が可能です。

(品名: DNHD6ESNMPⅢ)

ファンモジュール: ファンユニット及びSNMPユニットのファンモジュールが故障した場合にご購入下さい。

(品名: DNHDxEFANMD・・・標準タイプ)

(品名: DNHDxEFANMD(HS)・・・高速タイプ[※])

注: 以下の条件でメディアコンバータを実装する場合には、高速タイプのファンモジュールに交換して使用して下さい。

①DN6710E を実装する場合

②DN1820E に消費電流レベル 5 以上の SFP+を実装する場合

③DN6820E に消費電流レベル 5 以上の SFP+を実装する場合

(消費電流レベルは SFP+の仕様書を参照下さい)

高速タイプのファンモジュールが搭載できるのは以下になります。

・ファンユニット: Rev.B 以降

・SNMPⅢユニット: Rev.C 以降

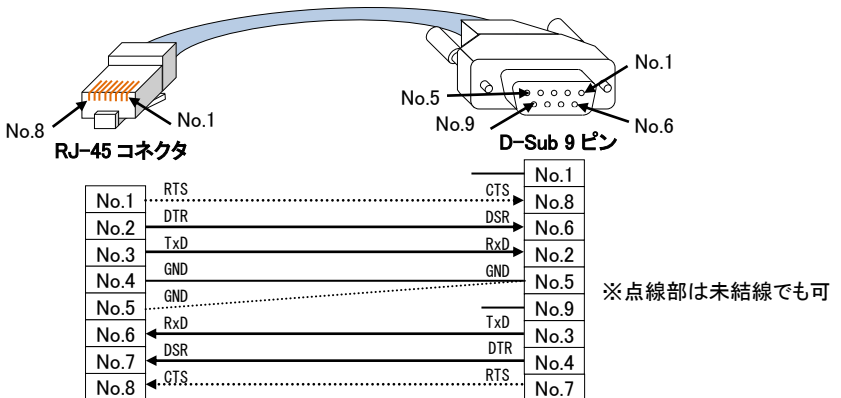
・使用電源ユニット(AC100V): Rev.D 以降、(DC): Rev.B 以降

各ユニットの Rev についてはロットシールにてご確認下さい。

別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

- ・DC 電源コード: DC 電源入力配線には、AWG18～AWG12(0.75mm²～3.5mm²)の電線をご使用下さい。
- ・ラック固定用ねじ: 本装置を 19 インチラックに固定する場合には、M5 サイズのねじをご使用下さい。
- ・盤固定用ねじ: 本装置に固定金具を取付けて盤などに固定する場合には、M5 サイズのねじをご使用下さい。
- ・端子台用ケーブル(接点出力用): 下記の電線サイズでご使用下さい。
 単線: $\phi 0.32\text{mm} \sim \phi 0.65\text{mm}$ (AWG28～AWG22)
 撚線: 0.08mm²～0.32mm² (AWG28～AWG22)
- ・ツイストペアケーブル: SNMPユニットの管理ポートに接続するケーブルは、TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ5 以上の UTP ケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものを御使用下さい。
 ※UTP ケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。
- ・RS232C ケーブル: SNMPユニットのシリアルポートに接続するケーブルは RJ-45 コネクタに結線された RS-232C ケーブルを使用して下さい。
 ケーブルは Cisco 社製 SW-HUB 用のコンソールケーブルが使用可能です。
 D-Sub9 ピン(メス)との結線を下図に示します。



2. 本体の設置

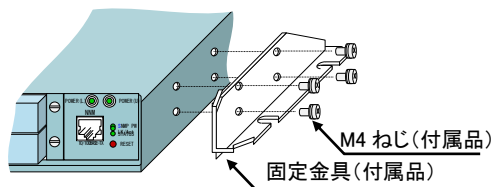
[盤などに固定する場合]

手順①: マウントブラケットの取外し

両側面に取付けられているマウントブラケットを取外します。

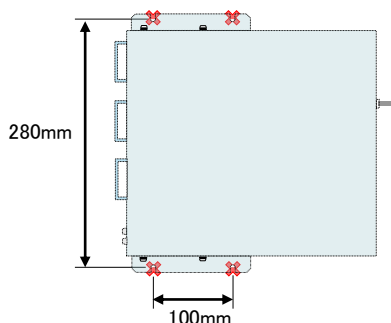
手順②: 固定金具の取付け

付属の固定金具を本体に取付けて下さい。
固定金具は右側と左側で形状が異なります。
右図では、右側面への取付けを図示して
いますので左側面も同様に取付けて下さい。



手順②: 壁面への固定

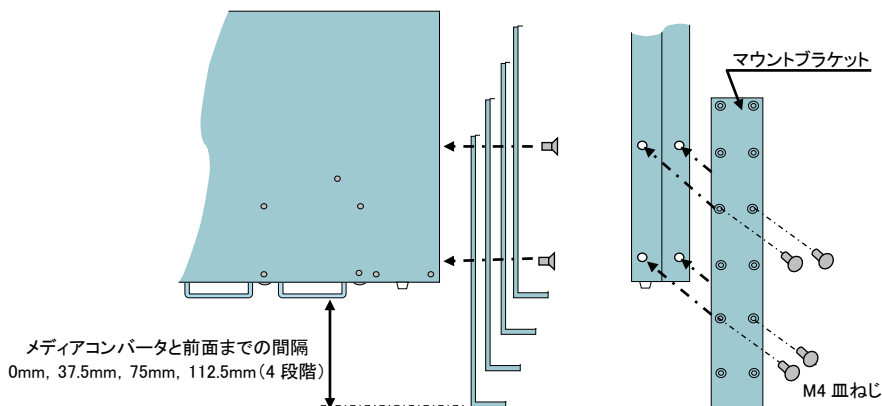
堅牢な壁面などに下図寸法でねじ穴を加工し、
M5 相当のねじで固定して下さい。
(M5 相当のねじ 4 本が必要となります)



[19 インチラックに取付ける場合]

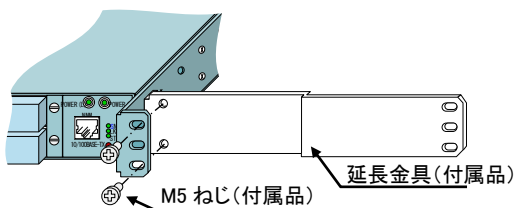
手順①: マウントブラケットの位置調整

本機は、マウントブラケットの取付位置を37.5mm 間隔で最大112.5mm スライドすることができます。19 インチラックの形状に応じてメディアコンバータに接続するケーブルの配線スペースを確保できる位置にマウントブラケットを取付けて下さい。



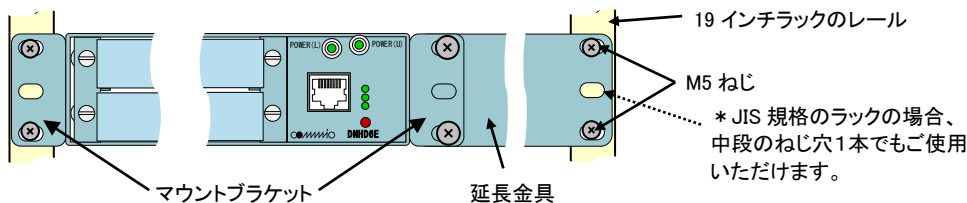
手順②: 延長金具の取付け

マウントブラケットの一方に延長金具を取付けます。



手順③: 19 インチラックへの取付け

本機のマウントブラケットを 19 インチラックのレールに取付けて下さい。
(M5 ねじ 4 本が必要)

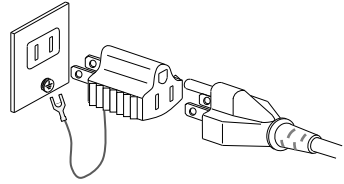


3. 電源及びケーブル接続

手順①:アース線の接続

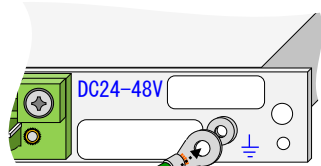
【AC 電源の場合】

接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。



【DC 電源の場合】

アース線に圧着端子等を取付けてから電源ユニットのアース端子に接続して下さい。電源を二重化してご使用の場合には、それぞれの電源ユニットについてアース接続を行って下さい。



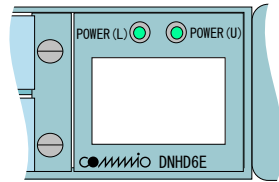
アース線

手順②:電源の接続

【AC 電源の場合】

電源ユニットの電源プラグを AC コンセントに差込んで下さい。本体の電源表示 LED が緑色に点灯することを確認して下さい。

上段の電源ユニット実装で POWER(U)が点灯
下段の電源ユニット実装で POWER(L)が点灯



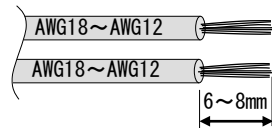
【DC 電源の場合】

①DC 電源ラインの回路ブレーカを遮断し電気が流れない状態にして下さい。

※装置の異常等により過電流が入力された際に出力側の保護を行うためのヒューズを内蔵しています。ヒューズが確実に溶断できるように、20A 以上の出力容量をもった電源を使用して下さい。

②電源コードの被覆を約7mm剥ぎ取り、導体を口出して下さい。

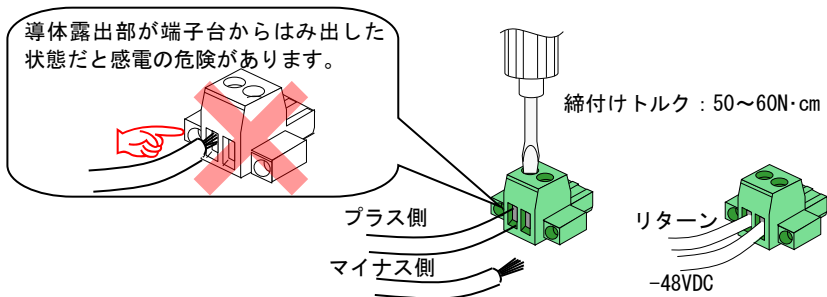
※導体部に予備はんだをしないで下さい。接触不良の原因となります。



③端子台ブロックに電源コードを差込み、上部のねじを締付けて下さい。

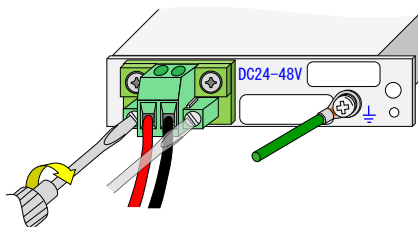
※プラス側とマイナス側の極性を間違わないように注意して下さい。

−48VDC 等の負電圧電源に接続する場合、帰線(リターン)をプラス側、−48Vラインをマイナス側に接続します。



④端子台ブロックを本体の電源コネクタに差込んで下さい。

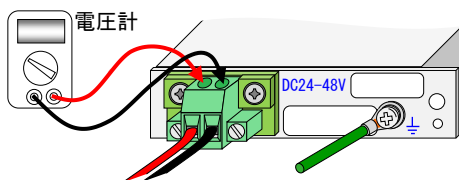
端子台ブロックの固定ねじを締付けておくことで電源コネクタの抜け防止を図ることができます。



⑤電源のブレーカーを ON にして本体の電源表示 LED が緑色に点灯することを確認して下さい。

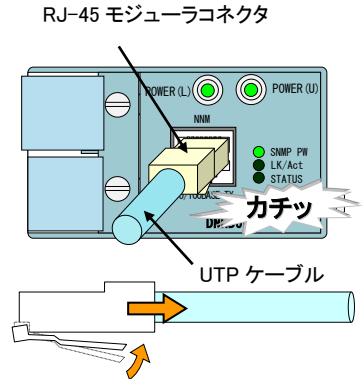
※電源スイッチを ON にする前に、供給電圧が仕様範囲内であるか、極性が間違っていないかを確認することをお勧めします。

注)仕様電圧範囲<21.6V~52.8V>を超える電圧を印加すると故障する可能性があります。



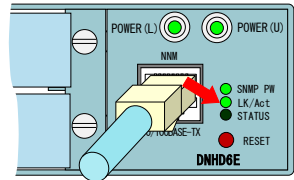
手順③: SNMPユニットの管理ポートへの接続

- ①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体の管理ポートに接続して下さい。
※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。
※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。
ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタや本体を破損する恐れがあります。



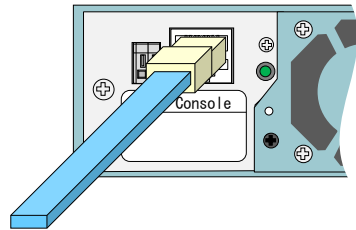
- ②UTP ケーブルを 10/100BASE-TX 対応の機器 (パソコンやスイッチングハブ等) に接続し、本装置表示 LED の「LK/Act」が点灯 (もしくは点滅) することを確認して下さい。

- ※管理ポートの通信速度はデフォルトで Auto-Negotiation 設定となっています。対向機器の速度・モードが同じになる様に設定して下さい。
- ※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップする可能性があります。



手順④: SNMPユニットのシリアルポートへの接続

- ①専用の RJ-45/D-Sub9 ピン (メス) 変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。
- ②RS-232C ケーブルの RJ-45 コネクタ側を本体のシリアルポートに接続して下さい。
※RJ-45 コネクタの抜き差しの際には管理ポートと同様です。
※RS-232C ケーブルは誤動作・故障する場合がありますので管理ポート (Ethernet 回線) へは差込まないで下さい。



- ③RS-232C ケーブルの D-Sub9 ピン側を PC 等の端末に接続して下さい。
※端末機が D-Sub9 ピン (オス) 以外の場合は別途変換コネクタを用意して下さい。
※端末機については、VT100 をサポートした通信ソフトウェアが動作する PC をご使用して下さい。
※通信ソフトウェアの設定については、SNMP ユニット取扱説明書 (ソフトウェア) を参照下さい。

手順⑤: SNMPユニットの接点出力端子への接続

- ①電線の被覆を約 10mm 剥ぎ取り、導体を口出しして下さい。

※導体部に予備はんだをしないで下さい。
接触不良の原因となります。

- ②マイナスドライバーなどの工具を使って、リリースボタンを押込んだ状態にして、電線を奥まで差込みます。

- ③リリースボタンを離すと、電線がロックされます。
電線を軽く引張りロックされていることを確認して下さい。

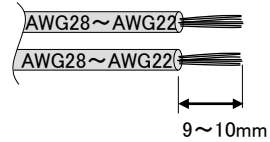
※接点出力は無電圧接点です。

接点出力を使用する際は、下記定格を必ず守って下さい。

最大電圧:DC50V,AC50V、最大電流:2A、最大電力:30W(DC),62.5VA(AC)

※左:電源断時に短絡、中央:共通端子、右:電源断時に開放となる端子となります。

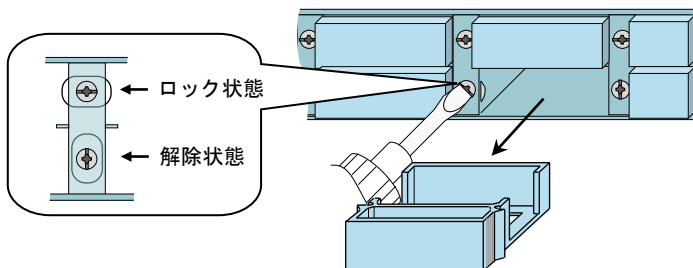
※CLI の「output」コマンドにより、“high”設定された場合は電源断時と同一の設定です。



4. メディアコンバータの取付け

手順①: ブラインドの取外し

メディアコンバータを実装するスロット部の両端にあるロックねじをドライバーで 90 度回転させ解除状態にしてブラインドを取外して下さい。取外したブラインドは大切に保管し、メディアコンバータを実装しないスロットには必ずブラインドを装着して下さい(ファンによる冷却効果が低減し本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)。

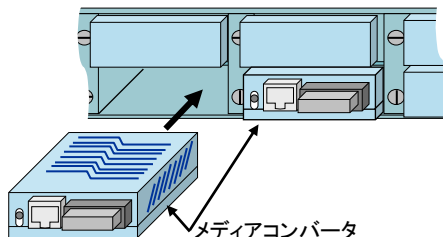


手順②: メディアコンバータの取付け

ブラインドを取外したスロット部にメディアコンバータを奥まで挿入して下さい。本機の板面から 11~37mm 程度突き出した状態が正常に装着された状態です (MC 機種によって異なります)。

本機の電源が投入されている場合には、メディアコンバータの電源表示 LED が点灯することを確認して下さい (メディアコンバータの電源表示 LED については、メディアコンバータの取扱説明書を参照下さい)。

メディアコンバータを奥まで差込んだら、両端のロックねじをドライバーで 90 度回転させメディアコンバータをロックして下さい。



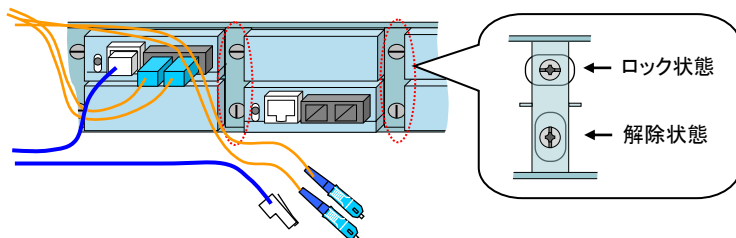
5. メディアコンバータの取外し

手順①: 配線の取外し

メディアコンバータに配線している UTP ケーブル及び光ケーブルのコネクタを取外して下さい。

手順②: ロックの開放

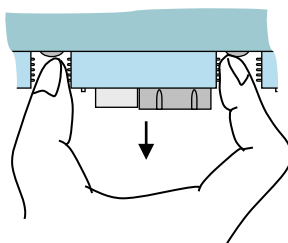
取外すメディアコンバータの両端にあるロックねじをドライバーで 90 度回転させ、ロック解除状態にして下さい。



手順③: メディアコンバータの取外し

メディアコンバータの側面を指でつまんでゆっくりと引抜いて下さい。

※ロックねじをきちんと解除していない状態で無理に引抜くと、メディアコンバータのケースを破損したり、本機のロックねじ部などを変形させる恐れがありますのでご注意下さい。



手順④: ブラインドの取付け

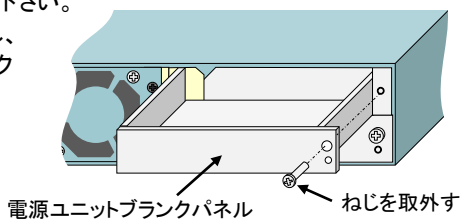
メディアコンバータを取外した箇所にはブラインドを装着し、両側のロックねじをきちんとロック状態にして下さい。

6. 電源ユニットの取付け

手順①: 電源ユニットブラックパネルの取外し

電源ユニットを二重化してご使用される場合には、本機背面の電源ユニットブラックパネル部のねじを緩めて電源ユニットブラックパネルを取外して下さい。

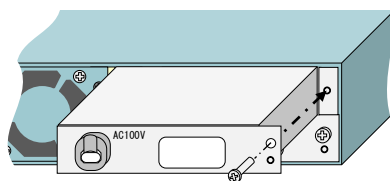
取外した電源ユニットブラックパネルは大切に保管し、電源ユニットを取外した際には必ず電源ユニットブラックパネルを装着して下さい(ファンによる冷却効果が低減し本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)。



手順②: 電源ユニットの取付け

電源ユニットをゆっくりと奥に突きあたるまで挿入し、ねじで固定して下さい。

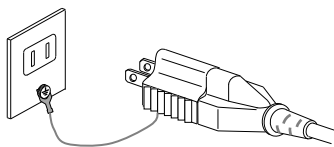
その後はアース線の接続および電源の接続を行って下さい。



7. 電源ユニットの取外し

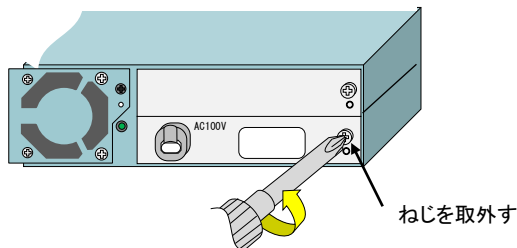
手順①: 電源の開放

交換する電源ユニットの電源をオフ(AC 電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC 電源はブレーカを切るか電源コネクタを取外す)にしてから、アース線を取外して下さい。



手順②: 固定ねじの取外し

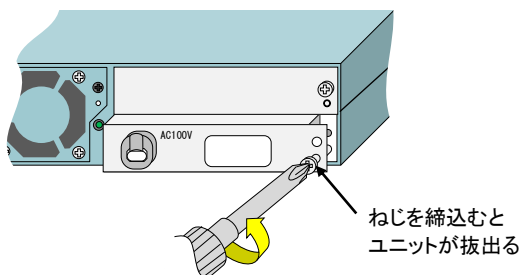
電源ユニットを取付けている M3 ねじをプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



手順③: 電源ユニットの取外し

取外したねじをそれぞれ引出用ねじ穴にねじ込むことで電源ユニットを 5mm 程度拔出してから、パネル部を持って電源ユニットを引抜いて下さい。

※電源コードを引っ張らないで下さい。



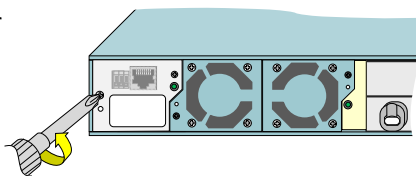
手順④: 電源ユニットブラックパネルの取付け

電源二重化の状態から、一方の電源ユニットを取外してもう一方の電源ユニットのみで使用される場合には、必ず電源ユニットブラックパネルを装着して下さい(ファンによる冷却効果が低減し本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)。

8. ファンユニット及びSNMPユニットの取外し

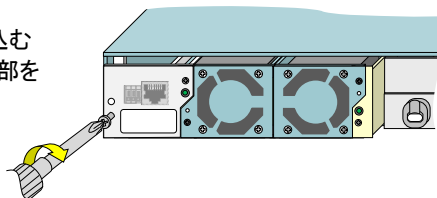
手順①: 固定ねじの取外し

ファンユニットもしくはSNMPユニットを取付けている M3 ねじをプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



手順②: ユニットの取外し

取外したねじをそれぞれ引出用ねじ穴にねじ込むことでユニットを 5mm 程度拔出してから、パネル部を持ってユニットを引抜いて下さい。

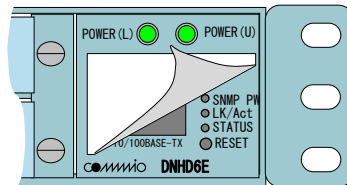


9. ファンユニット及びSNMPユニットの取付け

手順①: 前面シールの取外し

SNMPユニットを装着する場合には、本機の前面のシールを剥ぎ取って下さい。

SNMPユニットを装着しない場合には、シールを貼ったままで使用して下さい。



手順②: ユニットの取付け

ユニットをゆっくりと奥に突きあたるまで挿入し、ねじで固定して下さい。

※DN6710E を実装時は、ファンモジュールは

1 個実装の状態です挿入し、ユニット挿入後に

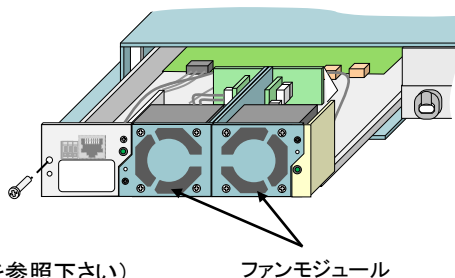
残りのファンモジュールを取付けて下さい。

ただし、電源ユニット 2 台装着時には、ファン

モジュールを 2 個実装したモジュールを挿入

して構いません。

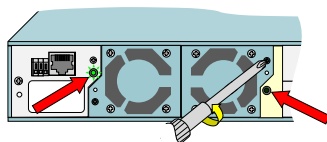
(ファンモジュールの取外し/取付け方法は 10 項を参照下さい)



10. ファンモジュールの交換

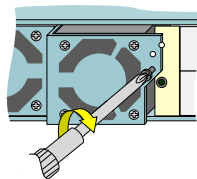
手順①: 固定ねじの取外し

ファンユニットもしくはSNMPユニットの背面にある表示 LED を確認し、故障 (LED が消灯または点滅) している側の固定ねじ (M2.5 黒色) をプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



手順②: ファンモジュールの取外し

取外したねじを引出用ねじ穴にねじ込むことでファンモジュールを 5mm 程度拔出してから、パネル部を持ってファンモジュールを引抜いて下さい。



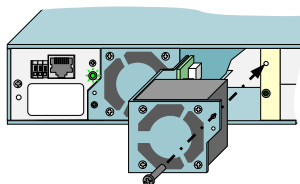
手順③: ファンモジュールの取付け

新しいファンモジュールをゆっくりと奥に突きあたるまで挿入し、ねじで固定して下さい。

ファンモジュール取付け後、LED が点灯することを確認して下さい。

※ファンモジュールは 1 つずつ取付けて下さい。

※高速タイプのファンモジュールが搭載できるかは P.7 の「オプション販売品」のファンモジュールにて確認して下さい。



※高速タイプのファンモジュールに交換する場合も交換方法は同様です。

11. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

電源表示 LED が点灯しない

確認①: 電源ユニットはきちんと奥まで実装されていますか？

確認②: AC 電源の場合、電源プラグは根元まできちんとコンセントに接続されていますか？

確認③: DC 電源の場合、極性は間違っていないか？

確認④: 電源電圧は仕様範囲内ですか？

入力電圧が低すぎる場合は出力を OFF にする機能を内蔵していますので、正しい電源電圧で再接続して下さい。

入力電圧が高すぎた場合、保護回路を内蔵しておりませんので故障の危険があります。ご使用を控えて点検・修理に出して下さい。

ファンが回転していない

確認①: 本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②: ファン(またはSNMP)ユニットはきちんと奥まで実装されていますか？

メディアコンバータに電源が供給されていない

確認①: 本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②: メディアコンバータはきちんと奥まで実装されロックされていますか？

管理ポート用 SNMP PW LED が点灯しない

確認①: SNMP ユニットは本体にきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: 本体の電源は入っていますか？

管理ポート用 LK/Act LED が点灯しない

確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？

確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認③: 接続相手の機器の設定と本装置の設定は合っていますか？

確認④: UTP ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？

代替りの UTP ケーブルで接続してみてください。

管理ポートが通信できない

確認①: 管理ポート設定が無効になっていませんか？

シリアルポートにて「portconfig -a」コマンドでポートステータスを確認して下さい。

確認②: 管理ポートの IP アドレス、Subnet マスクの設定は正しいですか？

シリアルポートにて「ipconfig -a」コマンドでアドレスを確認して下さい。

CONSOLE が接続できない

確認①: ケーブルや変換コネクタは正しく接続されていますか？

確認②: 通信ソフトウェアの設定内容は、本装置に合っていますか？

